

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
地域農業システム論				矢口 芳生	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>貿易の自由化等経済のグローバル化の進展のなかで、日本農業はビジネス型の大規模農業の展開がみられるものの様々な問題も抱えている。農業担い手は減少・高齢化し、多くは兼業農家や自給的農家となり、耕作放棄地が増大している。とくに中山間地域ではこうした状況が深刻で鳥獣被害も多く、集落は消滅しつつある。地域農業がビジネスとして展開し、諸問題を改善・解決し、そのための対策を早急に確立して地域農業をシステム化する必要がある。</p> <p>講義では、農業とはどのような産業なのか、日本農業の現状と関連する制度・政策、食の安全、作物別の生産状況、持続可能な農業・地域農業のあり方、世界の食料と農業の状況や課題と展望、等について講じる。さらに農業の特質と役割、地域農業ビジネスの展開方向、地域農業のシステム化について考える。なお、「感想シート」により、授業の理解度と参加態度をみながら講義を進める。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>世界・日本・地域の食料や農業の状況を理解し、農業の特質を踏まえて、地域農業の方向性を考えられるように、次の2点を到達目標にする（基礎知識の獲得と応用）。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本と世界の農業・食料の状況を理解し、農業・食料に関する用語を用いて説明や文書作成ができるようにする。 2. 工業（製造業）と農業の共通性と相違（農業の特質）を理解し、地域農業のニーズを把握し、説明・討議できるようにする。 					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	オリエンテーション 農業・農村とは何か（1）				
第 2 回	農業・農村とは何か（2）				
第 3 回	農業生産の構成要素の現状（1）				
第 4 回	農業生産の構成要素の現状（2）				
第 5 回	稲作農業・園芸農業・畜産業				
第 6 回	日本農政の戦後史				
第 7 回	世界の食料事情と食料・農業貿易（1）				
第 8 回	世界の食料事情と食料・農業貿易（2）				
第 9 回	地域農業のビジネス化・システム化（1）				
第 10 回	地域農業のビジネス化・システム化（2）				
第 11 回	地域農業の活性化・システム化（1）				
第 12 回	地域農業の活性化・システム化（2）				
第 13 回	地域農業の活性化・システム化（3）				
第 14 回	地域農業の活性化・システム化（4）				
第 15 回	まとめ—現代社会における〈農〉の意義と役割				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 指定したテキストは必ず読んでおくこと。また、参考書にも挑戦しよう。 2. わからない点等は授業毎の「感想シート」に記入すること。 3. 自分の住んでいる地域の農家の人々と話す機会をつくろう。 4. 農家の悩み、課題や問題の解決方向について農家とともに考えてみよう。 					

評価方法 (割合)	評価基準
感想シート (15 %) 期末試験 (85 %)	「感想シート」で毎回1点で評価。 期末テストは理解の到達度を85点満点で評価。 評価に際して授業態度も考慮する。 期末テストの評価基準は次のとおり。 秀：設問に適切に答えている。 優：設問に答えている。 良：設問に答えていない箇所がある。 可：設問に答えていない箇所が多いが、最低限の水準を満たす。 不可：設問に答えていない。講義への欠席は5回まで。
テキスト (Textbook)	『世界と日本の食料・農業・農村に関するファクトブック2018』税別600円 【書名】 業・農村に関するファクトブック2018 【著者】 JA全中 【出版社】 (株) 日本農業新聞 【出版年】 2018年
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	矢口芳生『農家の将来—TPPと農業・農政の論点』農林統計出版、2013年。適宜、資料を配布する。
備考 (Other Information)	講義中にノートをとること。講義中の私語・飲食は慎むこと。 講義室で帽子はかぶらないこと。講義中に無断で退出しないこと。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	各担当教員の研究室前に掲示したTel/Mail等へ連絡 もしくは在室時に直接面談。